

地域の経済動向（令和4年1～3月期）

《道南（渡島・檜山）地域》

1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

【建設業】

- ・従業員が高齢化しており、若年者の採用や、経験豊富な従業員の技術継承が課題（土木工事業）

【製造業】

- ・原油価格上昇が課題。（一般製材業）
- ・原材料費高騰が不安。（水産食料品製造業）
- ・原油の二重課税の撤廃を期間限定でも良いので検討してほしい。（清涼飲料製造業）
- ・コロナ禍で飲食店向けの販売が減少し、量販店等への販売が増加したが、販売単価は減少。（水産加工業）
- ・原油高は従業員の送迎用のマイクロバスや、原料搬入に必要なガソリン代に影響している。（水産加工業）

【卸売・小売業】

- ・コロナ禍がいつまで続くか予測がつかず、得意先の廃業が不安。（一般食料品卸売業）
- ・コロナ禍で宿泊業、飲食業などの消費が落ち込み、市場にも影響（卸売市場）
- ・新たな販路拡大のため東京のスーパーでの販売を始めたが、原油高により輸送費が上がり、利益がほとんど出ていない（野菜作農業）

【運輸業】

- ・コロナの影響による自動車の部品不足と生産台数の減少により、運搬する自動車の台数が減少し、売上が低迷。（一般貨物自動車運送業）








【サービス業】

- ・公共事業の予算確保を期待。（測量業）
- ・社員の高齢化により業務を縮小。（自動車整備業）
- ・コロナ禍で修学旅行のキャンセルが続いている。（宿泊業）









【関係機関・団体】

- ・飲食業、小売業はコロナ禍で売上が減少しているが、飲食業は特に厳しく、年明けからのまん延防止期間はほとんどの事業者が店を閉めていた。（商工会）
- ・プレミアム商品券事業は、年末のテイクアウト利用が多く、飲食店の手助けとなった。（商工会）
- ・理容業は、まん延防止期間中は特に客足が遠のいていた。（商工会）
- ・水産加工業では、スルメ加工業者は、主にロシア産冷凍原魚にて平年並みの稼働となった一方、前浜生原魚主体先では原魚不足から仕入価格高止まりとなり採算性を考慮し低稼働となった。スケソウ加工は、12月より稼働となるが、時化続きで漁獲量が少なく本格稼働に至らず。イカ珍味加工、ホッケ珍味加工、たこ茹で冷凍加工は、前浜漁獲量に左右され原料確保に苦慮し低稼働状況となっている。（金融機関）
- ・木材・製材業では、建築用資材は、トドマツ原木を主体にグリーン材、乾燥材加工。グリーン材は道内及び東北方面へ、乾燥材は道内向けに出荷。ウッドショックによる原木品薄から価格上昇となったが、原価上昇分を販売価格に転嫁できたことで売上は「やや増加」で推移している。梱包材、集成材共に受注増加により売上は前年同期比で「やや増加」で推移している。（金融機関）
- ・小売業では、コンビニエンスストアは、「地域商品券」効果や年末需要により「やや増加」「横這い」で推移したが、一部地域で、人流の減少により客足が伸びず「やや減少」となった。（金融機関）

















2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

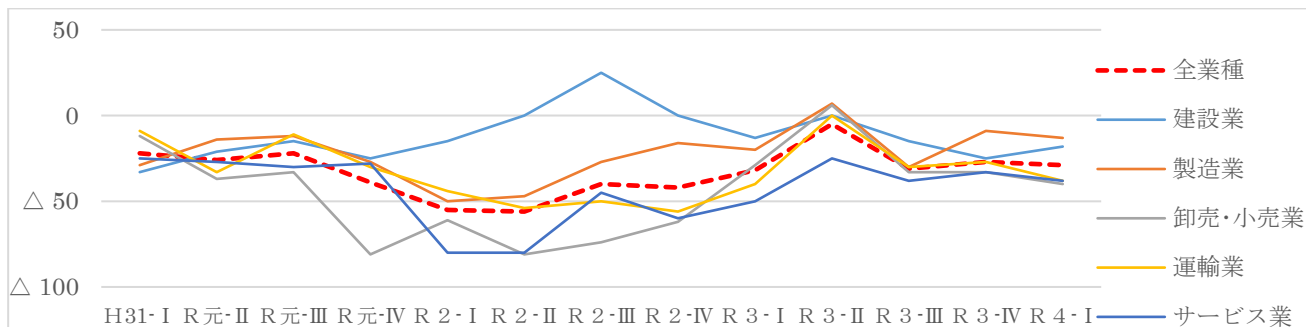
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
渡島信用金庫				新型コロナ関連の影響は収まらず、普段通りの生活に回帰できていない。飲食業、観光業等の業況感が低迷、消費者同行の水準も低いことから、「やや低調」と判断した。		北海道内におけるまん延防止等重点措置の解除により、直前四半期に比べ、人流の活性化に多少の期待は持てるものの、先行き不透明感の払拭はできないというのが大筋の見方としている。地域経済の回復には、相当の期間が要されるものと思慮し、今期と「変わらない」と判断した。
道南うみ街信用金庫				今期の業況 DI は、建設業で均衡を保ったが、他の業種全てで依然として大幅なマイナスを示している。売上額の動きにおいても、同様に建設業で均衡を維持したものの、他業種全てでマイナスを示した。特に、サービス業・製造業のマイナス幅は大きかった。また、受注残高・施行高の動きでは、建設業・製造業ともにマイナスとなり、厳しい業況を示していることから、前期の「やや低調」から後退し「低調」と判断した。		各業種ともに、次期予想の概況 DI・売上額 DI・収益の動き DI がマイナスを示した。まん延防止等重点措置が解除されたが、依然として新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を引きずる事が予想される。また近時の世情から、種々の価格値上りも見込まれ、当面の間は、“足踏み状態”が続き、今期の「低調」と「変わらない」と判断した。

【景況感の推移】

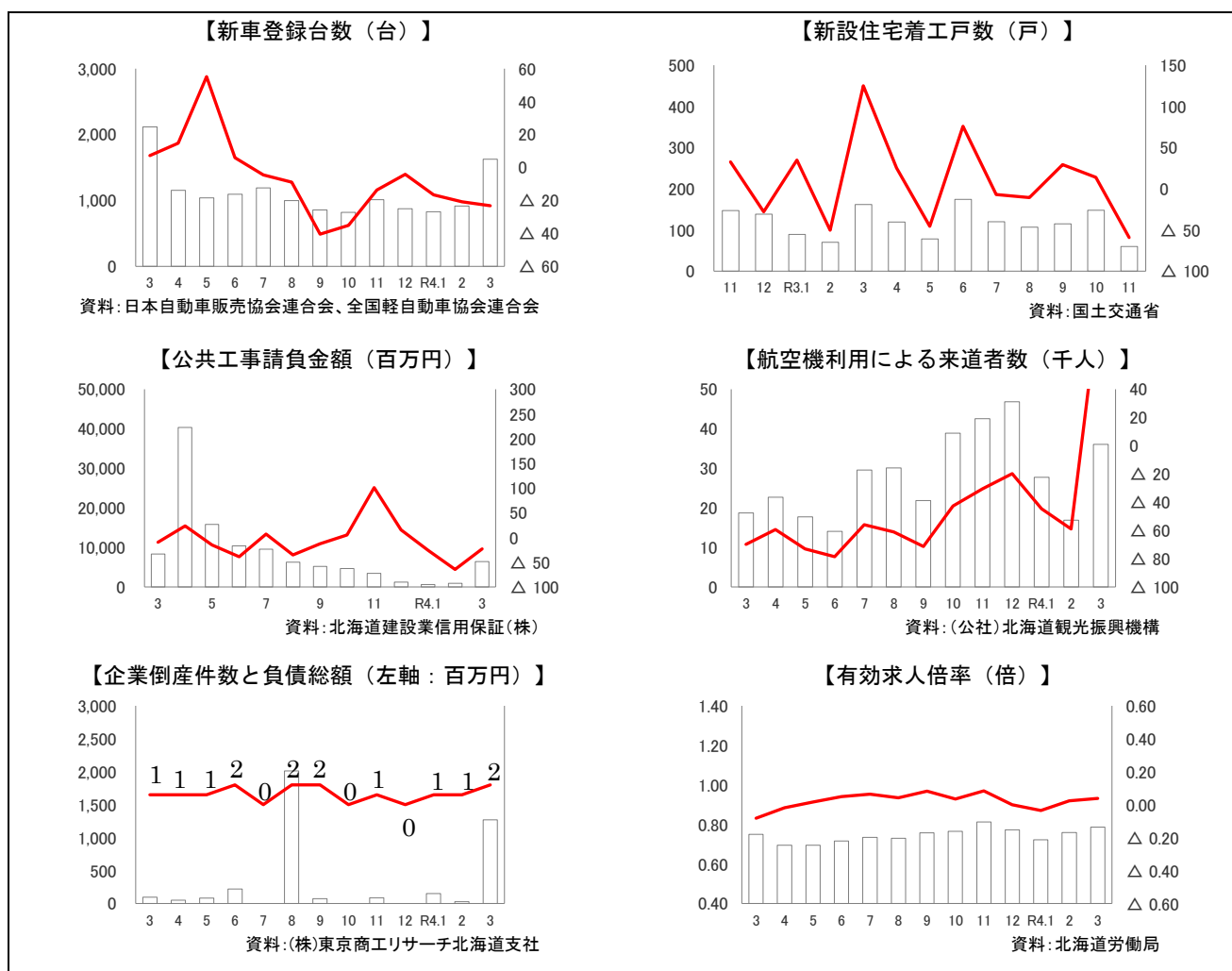
	R2-Ⅱ	R2-Ⅲ	R2-Ⅳ	R3-Ⅰ	R3-Ⅱ	R3-Ⅲ	R3-Ⅳ	R4-Ⅰ
渡島信用金庫								
道南うみ街信用金庫								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	H31-I	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
全業種	△ 22	△ 26	△ 22	△ 39	△ 55	△ 56	△ 40	△ 42	△ 32	△ 5	△ 31	△ 27	△ 29
建設業	△ 33	△ 21	△ 15	△ 25	△ 15	0	25	0	△ 13	0	△ 15	△ 25	△ 18
製造業	△ 29	△ 14	△ 12	△ 27	△ 50	△ 47	△ 27	△ 16	△ 20	7	△ 30	△ 9	△ 13
卸売・小売業	△ 12	△ 37	△ 33	△ 81	△ 61	△ 81	△ 74	△ 62	△ 29	6	△ 33	△ 33	△ 40
運輸業	△ 9	△ 33	△ 11	△ 30	△ 44	△ 54	△ 50	△ 56	△ 40	0	△ 30	△ 27	△ 38
サービス業	△ 25	△ 27	△ 30	△ 28	△ 80	△ 80	△ 45	△ 60	△ 50	△ 25	△ 38	△ 33	△ 38

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)